

# 大学生と読書

—読書環境の変化—

## University Students and Reading

—Changes in Reading Environment—

吉田 昭子

Akiko Yoshida

### 要旨

コロナ禍における大学生の生活は、ことごとく変わっている。その中で大学生は工夫をしながら生活している。「新しい生活様式」を探るにはあまりにも複雑な状況にある。本稿では新1年生に焦点を当て、おそらく初めてであろう電子図書館利用の体験を指導することから、「大学生と読書」を考えてみることにした。電子図書館の利活用という新たな観点から、読書環境を見つめ直すことが課題解決の一助になると考えた。

大学生からの電子図書館改善点は、次のような3つの主要望であった。図書のタイトル数を増やす、貸出冊数や貸出期間を増やす、試し読みのできる図書を増やす。筆者が最も痛感したのは、電子図書館に関するPRが少ないという指摘である。電子図書館の申請や利用方法、利用事例などをきめ細かく例示することで、利用を促進することができる。さらに、大学生だけではなく、教職員に対しても、その利便性を広く伝え、文化学園ならではの図書館づくりを目指していきたい。より多角的かつ立体的な観点から大学生の読書、大学図書館のあり方をとらえ直すことで、新たな図書館を創出することができるということが明らかになった。

●キーワード：読書 (reading) / 大学生 (university students) / 電子図書館 (electronic library)

### I. 新型コロナウイルス感染拡大と大学生

2020年に入って、新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の感染拡大が私たちの生活に大きく深刻な影響を与えている。4月には緊急事態宣言が発出され、5月には緊急事態宣言が解除された。感染対策として、身体的距離の確保、マスクの着用、手洗いなどの実施、新しい生活様式への転換の必要性が指摘された。しかし、夏には第2波、冬には第3波といわれる感染者の増加がみられる。これは世界的な規模で繰り返されており、衰える様子はみえない。緊急事態宣言の発出をうけて、多くの大学が、4月から非対面型オンライン授業を実施し、新型コロナウイルス対策を講じたうえで、各大学で対面型授業が再開している。文化学園大学においても、5月11日からオンライン授業が開始された。5月25日の緊急事態宣言解除を受けて、大学は6月8日から一部の講義科目、実験・実習科目を中心に対面授業を行い、そのほかは可能な限りオンライン授業として実施するという方針で授業が展開されている。

第II章で2020年の新型コロナウイルス感染拡大状況下における学部1年生の生活の状況や変化を取り上げる。

第III章では2019年秋以後の大学生の読書、コロナ禍での電子図書館の活用の可能性や必要性について述べる。第IV章では文化学園大学の授業の中における学部1年生の電子図書館利用事例を取り上げる。

最初に新型コロナ禍での大学生の生活環境の変化について述べ、次に筆者が担当する授業の中で、電子図書館に着目した。初めて電子図書館を利用する学部1年生の授業 (電子図書館の活用の実践) を通して、大学生の読書と電子図書館利用促進について考察する。

### II. コロナ禍における大学1年生の日常生活の変化

筆者が担当する国際文化学部日本語文章作成演習Iの前期授業の中で、1年生64名に5月下旬の課題 (春休みをどのように過ごしたか、大学生になって始めたことは何か、どのような変化があったか。大学生になって読書はどのように変わったかなど)、生活状況について、400字程度の文章にまとめて回答する形式をとった。各文章から該当する項目を集計・比較した。

## 2. 1 新型コロナウイルス感染拡大をきっかけに中止せざるを得なかったこと

感染拡大をきっかけに中止せざるを得なかったことをまとめたのが第1表である。

第1表 中止せざるを得なかったこと

	中止せざるを得なかったこと	回答数 (%)
1	卒業旅行	10 (15.6%)
2	イベントへの参加	8 (12.5%)
3	友人と遊びに行くこと	3 (4.7%)
4	アルバイト	2 (3.1%)
5	留学生の帰国	1 (1.6%)

最も多くの10名の学生が挙げたのが、卒業旅行である。国内外の旅行を予定して、友人たちと旅行計画を立て、申し込んでいたが、感染拡大をキャンセルせざるを得ず、非常に残念だったとしている。緊急事態宣言以前の時期に卒業旅行に行くことができたという回答している学生が3名みられた。一方で留学生1名は春休みに帰国できず1人で過ごしたと回答している。

次に多かったのが、イベントへの参加を中止した8名である。イベントとはお花見、友達とのドライブの予定、卒業式、入学式などのことである。高等学校の卒業式や大学の入学式などが中止になり、当日着用する予定で用意していた洋服を着ることができなくて残念であったとしている。高等学校の卒業式はクラス単位で行われ、卒業証書が配られただけだった。大学の入学式も中止になったため、自分たちなりに工夫して、友達同士で着物を着て写真を撮るなど、思い出づくりをしたという学生もみられた。

春休みにテーマパークなどに友人と遊びに行くのを以前から楽しみにしていたが、自粛で行かれなかったという学生は3名である。一方、感染拡大が進んでいない地域の場合は友達と遊んで楽しかったと回答している例もみられた。新型コロナウイルスの影響で、高校生のおきからやっていたアルバイトを続けることができなくなった例もみられた。

## 2. 2 大学生になって始めたこと

春休み、大学生になって自分で始めたことは何かという問いに対する学生の回答は、第2表のとおりである。

最も多いのは、大学入学を機に、やるべきことの計画を立てたという12名である。4年間の長期的な目標と短期的な目標を考えた。具体的な目標を立てる際に友人と

話し合ったという回答もみられた。

第2表 大学生になって始めたこと

	始めたこと	回答数 (%)
1	生活の計画をたてた	12名 (18.8%)
2	語学の勉強	10名 (15.6%)
3	アルバイト	9名 (14.1%)
4	資格試験の勉強	4名 (6.3%)

将来の仕事を考えると語学が重要であると考え、語学の学習を挙げた学生も10名みられた。複数の言語を挙げている場合もあり、英語(8名)だけではなく、アジア言語の韓国語(3名)、中国語(2名)もみられた。

アルバイトを始めた9名では、仕事内容を覚えること、接客、コミュニケーションの難しさを実感したという回答があった。ドラッグストアのアルバイトでは、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、マスク購入者が非常に多く、在庫不足が生じていた時期には接客に非常に苦労したとしている。手芸店のアルバイトをした場合は、マスク不足だった時期には、自分でマスクを作成するための材料がよく売れたことが印象的だったとしている。また、取得した資格は自動車運転免許のほか、語学の検定、国内旅行業務取扱管理者、紅茶検定など、幅広い分野に及んでいる。

## 2. 3 外出自粛期間に行ったこと

緊急事態宣言が発生して、外出自粛期間には何をしていたかを示したのが、第3表である。

第3表 外出自粛期間に行ったこと

	自粛時に行ったこと	回答数 (%)
1	映像、映画鑑賞	11名 (17.2%)
2	家事	11名 (17.2%)
3	料理	8名 (12.5%)
4	手芸	6名 (9.4%)
5	お菓子づくり	5名 (7.8%)
6	絵画	3名 (4.7%)
6	スポーツ	3名 (4.7%)
6	勉強(予習・復習)	3名 (4.7%)
6	音楽鑑賞、楽器演奏	3名 (4.7%)
10	苦手な分野の勉強	2名 (3.1%)
10	散歩	2名 (3.1%)
12	インスタグラムで勉強	1名 (1.6%)
12	庭の改造	1名 (1.6%)

テレビドラマや映画などの映像の鑑賞を挙げた学生が11名であった。このうち、3名は高校生の時には、邦画だけをみていたが、大学生になってから洋画をみるようになったと述べている。映画は英語だけではなく、2名が韓国映画や韓国ドラマをみていると答えている。

春休みになる前から映画館で1日1本計画的に映画をみるという計画を立てて楽しみにしていたが、新型コロナウイルスの影響で映画館に行くことができなくなった。自宅でビデオなどをみていたという例もある。英語の映画については、『プラダを着た悪魔』、『タイタニック』などの作品が挙がっており、英語の勉強と関連づけて映画鑑賞を行っている。楽しみながら、勉強するという各自の工夫がみられる。

家事を挙げた11名のうち、9名は掃除や部屋の片づけ、2名は洗濯を挙げている。母親の仕事を手伝う中で、家事の大変さに気づき、母親に感謝したという感想もみられた。受験期に使った教科書や参考書などを整理して、いらぬものは廃棄したという例もある。1人暮らしの場合も部屋の片づけをするとともに、お気に入りの家具を配置換えしたり、インテリアの工夫をしたとしている。

次に多いのが料理8名である。新型コロナウイルス感染防止として外食の機会が減少し、自宅で料理をする機会が増え、自分の好きな卵料理のレパートリーを増やした。韓国に興味を持っているためYouTubeで韓国語の説明を聞きながら、韓国語の勉強をかねて韓国料理をつくっているという例もある。語学の勉強を映像や音楽、自分の好きなもの、料理などに関連づけて行っている例もみられる。

また、普段は比較的時間がかかるためにやらなかった手芸を始めたという学生もみられる。6名が洋服づくり、洋服のリメイク、刺繍、アクセサリーづくりなどを時間が捻出しやすい外出自粛期間につくり始めたとしている。

苦手な分野を克服するために、高校生の頃の勉強の復習をしたり、大学の授業の予習や復習を始めることで、これまでよりも、学ぶことが楽しくなったという感想もみられる。

ペットの散歩などで少し運動しただけで体力が落ちたことに気づいた。その後は、スポーツや散歩などを日課にして始めた例もある。

## 2. 4 大学生になり変化したこと

大学生になって変化した点については、第4表に示したとおりである。

第4表 大学生になり変化したこと

	大学生になり変化したこと	回答数 (%)
1	自分と向き合う時間が増えた	6名 (9.4%)
1	新しい生活様式を楽しむようにしている	6名 (9.4%)
3	家族と一緒に時間が増えた	5名 (7.8%)
4	規則正しい生活を心がけている	4名 (6.3%)
4	ニュースを見るようになった	4名 (6.3%)
4	自主的学べるようになった	4名 (6.3%)
7	時間を有効に使うようになった	3名 (4.7%)
8	高校時代にできなかったことをした(校則からの解放)	2名 (3.1%)
9	将来を考えるようになった	1名 (1.6%)
9	政治や社会に関心を持った	1名 (1.6%)

6名が自分と向き合う時間が増えたと答えている。外出自粛の中で、日々自宅で過ごしているうちに、家の中で楽しむことができることも沢山あることに気づいた。毎日の出来事、印象に残ったことは日記をつけて記録するようにした。消極的な気分になりがちなので、新しい生活様式を楽しむことができるように、日々工夫しているとといった回答もある。

5名が家族と一緒に過ごす時間が増え、家族とのコミュニケーションが円滑になったと回答している。今までは外出していることが多く気づかなかった家族の生活や趣味がわかり、一緒に楽しむことができるようになった。自分自身の将来を考え、自分を取り巻く政治や社会状況について関心を持つようになったという意見もみられる。日常に目を向けることで、日々の時間を有効に使うことができるようになったという感想もみられた。

新型コロナウイルスに関するニュースなどをみる機会が増え、時事的なことに関心を持つようになった。自分なりに考えることができるようになり、外出自粛を日常生活に生かせるようになったという例もみられる。

## 2. 5 大学生になってからの読書

大学生になってから、外出自粛生活の中で、読書について変化があったかどうかをたずねた結果が、第5表のとおりである。以前から読書はしないと回答している場合がある一方で、本来読書好きなので、これまで読んだ本を読み直したり、これまで読むことの少なかったジャンルの本も読むようになったとしている場合もある。

第5表 大学生になってからの読書

	大学生になってからの読書	回答数 (%)
1	以前より読書量が増加した	10名 (15.6%)
2	異なるジャンルの本を読み始めた	7名 (10.9%)
3	以前は読まなかったが読み始めた	4名 (6.3%)
3	読書はしない	4名 (6.3%)
3	小説を読み始めた	4名 (6.3%)
6	読んだことがある本を読み直した	3名 (4.7%)
7	洋書を読み始めた	1名 (1.6%)
7	映画の原作を読んだ	1名 (1.6%)
7	友人に勧められた本を読んだ	1名 (1.6%)
7	心温まる内容のものを選んで読む	1名 (1.6%)
7	漢字の意味や読みをスマートフォンで調べながら読むようになった	1名 (1.6%)

読書量が増えたと回答している10名のうちには、毎日時間を決めて1章ずつ本を読んでいる。本を沢山読むことを目標にして毎日計画を立てている。人生をどのように生きるかなどを考えながら本を選んで読んでいる。高校生のときには読む時間がなく、雑誌しか読まなかったが、長編小説も読むようになったなどの意見がみられた。

これまで読んだ本とはジャンルの異なる本を読み始めた。読書の幅を広げているという例では、マーケティングや心理学の本を読んでいるや、エッセイにも興味を持つようになったなどがある。

また、小説を読み始めたという4名の中には、好きな作家として具体的に山田悠介、東野圭吾などが挙がっている。ミステリーの長編などを読み始めたとしている。

洋書を読み始めたという例では、まず日本語で読んだことがある本の原書を選び、日本語と英語を比較しながら読んでいる。『ハリーポッターシリーズ』や『オリエンタル急行殺人事件』などから読み始めたとしている。

ミステリーやホラーの作品に人気がある反面、新型コロナウイルスの感染拡大が続き、日々暗い話題が多いので作品の内容はできるだけ前向きで心温まる内容を選ぶようにしているという意見もある。

### Ⅲ. 大学生と読書

#### 3. 1 自粛期間における大学生の読書環境

「空白の時間読書の喜びを知る」(『朝日新聞』2020年4月22日朝刊)<sup>1)</sup>の記事では、大学1年生が遠隔方式の授業が始まる5月半ばまでの空白時間が生じ、受験期間に制限していたゲームをやってみたら、はじめは楽し

かった。しかし、むなしくなり、プラモデル製作、料理、裁縫もしたが、どれも「楽しい」とは思うものの、「続けよう」とは思わなかった。やる事がなくなり、受験期には控えていた小説、評論、詩、国内から国外までさまざまなジャンルを読み漁り、読書の面白さに魅了された。多くの作者の思想に触れ、新たな視点をうることができそれが知力となり、成長の糧となるとして、この空白の時間を読書のために生かすことを提案している。

2. 4で述べたように、外出自粛により、大学生が自宅で過ごす時間が増加し、自分を見つめ直す機会が増加している。2. 5で取り上げたようにこれまでよりも読書量を増やし、異なるジャンルの本を読むように考えた学生も多い。

#### 3. 2 コロナ禍における電子図書館サービス

新型コロナウイルス感染症問題が深刻化する中で、図書館をはじめとする文化施設は休館や開館時間・サービス内容の縮小などの対応を余儀なくされた。大学図書館でも新型コロナウイルス感染症に対する対応として、対面授業中止や大学構内への入構停止措置がとられた。こうした状況の中、オンラインによる授業が進められており、大学図書館では各種のオンラインデータベースや電子書籍が提供された<sup>2)</sup>。

コロナ禍で公共図書館でも利用が制限され、図書館の休館や閲覧制限が行われた。「補完的活用で読書機会保とう」(『読売新聞』2020年7月19日朝刊)<sup>3)</sup>は図書館が平常の役割を果たせない場合も、読書の機会は維持してほしい。大学図書館の利用も制限され、特に人文系分野では研究者や学生が絶版などで入手困難な文献を調査できない状況にあるとし、電子書籍を貸し出す電子図書館サービスの必要性を指摘している。

「コロナ禍を読書する機会に」(『朝日新聞』2020年4月24日朝刊)<sup>4)</sup>は全国大学生生活協同組合連合会が2019年秋に新型コロナウイルス感染拡大以前に実施した「学生生活実態調査」の調査結果を取り上げている。大学生の1日の読書時間は、「0分」が48.1%、「60分以上」は26.8%を示している。60分以上読んだ学生の割合は4人に1人、過去15年で最も高く、二極化が進んでいると分析している。

急速なデジタル化が進展している中で読書環境は好転しており、著作権が消滅した作品は「青空文庫」<sup>5)</sup>の電子書籍は無料で利用できる。大学図書館の蔵書はスマートフォンで検索し利用できる。外出自粛を求められる中

で、この機会に読書の楽しさを知る大学生が増えることを期待していると指摘している。新型コロナウイルスの感染拡大は今後も続くと予想される。大学生の読書環境を維持するためには、電子図書館の利用促進を積極的に進める必要があることがわかる。

『電子図書館・電子書籍貸出サービス調査報告』2019年版では、日本の大学図書館における「電子図書館・電子書籍サービス」の実態把握調査は十分とはいえないが、大学図書館では「電子書籍サービス」、「電子ジャーナルサービス」、「データベース提供サービス」、「機関リポジトリ」は電子図書館サービスの根幹的サービスになっているとしている<sup>6)</sup>。しかし、電子書籍サービスを授業において意図的、意識的に活用している事例は2019年は28件である。2018年の13件に比べると、その利用は倍増しているが、電子図書館サービスがより多くの学生や教職員に一層活用される必要があると指摘している。そこで、文化学園図書館の電子図書館を活用して授業を実施してみることにした。

#### IV. 授業における電子図書館の活用

##### 4. 1 電子図書館利用の準備段階

文化学園図書館では、「LibrariE (ライブラリエ) & TRC-DL<sup>7)</sup>」により、利用者はインターネット経由で電子書籍を紙の本と同じように、検索、貸出、返却、閲覧することができる。図書館の利用資格がある利用者は図書館に利用申請を行い、ID・パスワードでログインすれば、1人2冊、2週間利用することができる。

文化学園図書館「LibrariE (ライブラリエ) & TRC-DL」では2020年12月14日の段階で、約830タイトルの図書を利用できる。日本十進分類法の分類別にみると、総記7タイトル (0.8%)、哲学21タイトル (2.5%)、歴史104タイトル (12.5%)、社会科学43タイトル (5.2%)、自然科学23タイトル (2.8%)、技術・工学・工業101タイトル (12.2%)、産業27タイトル (3.3%)、芸術・美術30タイトル (3.6%)、言語90タイトル (10.8%)、文学384タイトル (46.3%)である。言語、文学関係のタイトルが半数以上を占めていることがわかる。

新型コロナ感染拡大防止の方針の下で、後期授業も前期に引き続き一部対面授業を実施しながら、オンラインを活用して実施している。ここでは、筆者が担当する国際文化学部1年生のための後期授業「日本語文章作成演習Ⅱ」の中で電子図書館を活用して授業を行った事例を取り上げる。

この授業は、あるテーマを設定して適切なレポートを書けるようになることを目指して実施している。通常、学生はレポートを作成するための資料探しの段階で、実際に大学図書館を訪れ、図書や雑誌、データベースなどを調査する。しかし、今回は新型コロナウイルス感染防止の影響で、学生はリアルな大学図書館を思うように利用できない。そこで授業の中で電子図書館を利用する機会を設定することにした。まず、電子図書館利用準備として、利用申請をする段階から開始した。

##### 4. 2 学生による電子図書館の利用

授業の中で、電子図書館へのログインの仕方や本の探し方、閲覧、貸出の方法の概略を説明した。さらに、学生は図書館に利用申請を行う。ID・パスワードを取得してログインし、実際に利用してみるまでを課題とした。

課題は二つ設定した。第1番目の課題は、電子図書館にログインして、興味を持った本を選ぶこと、図書1冊についてクラスメイトにお勧めのポイントを200字程度の文章にまとめる。第2番目の課題は、文化学園の電子図書館と自分が普段利用しているリアル図書館を比較してよいと思った点や改善が必要と考えた点について200字程度の文章で説明することである。

##### 4. 2 学生が選んだ図書

第1番目の課題として、学生30名が選んだ図書は第6表のとおりである。30名のうちの割合を示した。ファッション関係の学科の学生のため、ファッション関係の技術・工学・工業や芸術・美術関係の図書を選んだ学生が多い。

第6表 学生が選んだ本 (ジャンル別)

ジャンル	タイトル (%)	ジャンル	タイトル (%)
総記	0 ( 0%)	哲学	0 ( 0%)
歴史	1 ( 3.3%)	社会科学	2 ( 6.7%)
自然科学	2 ( 6.7%)	技術・工学・工業	10 (33.3%)
産業	1 ( 3.3%)	芸術・美術	6 (20.0%)
言語	3 (10 %)	文学	5 (16.7%)

複数 (2名) の学生が選んだ図書は次の3タイトルである。具体的書名は『ファッション業界人になる本。』(樫出版, 2019年刊), kemio著『ウチら棺桶まで永遠のランウェイ』(KADOKAWA, 2019年刊), 貴志祐介著『鍵のか

かった部屋』(KADOKAWA, 2012年刊, 底本は角川文庫)である。

『ファッション業界人になる本。』は、ファッション業界の仕事内容やスケジュールから、その職に就いたきっかけや思いについて書かれている。これからファッション業界を目指す人のためのアドバイスが紹介されている。

次の『ウチら棺桶まで永遠のランウェイ』はモデルや発行者、歌手としても活躍しているクリエイターのエッセイである。文章の書き方や話し方が人気を集めている。

最後の『鍵のかかった部屋』は密室がテーマのミステリー小説で、2012年にテレビドラマ化された作品である。この作品が選択されたのも昔見たドラマの原作だからである。

#### 4. 3 電子図書館を利用して感じた長所短所

実際に電子図書館を利用して感じた長所は第7表のとおりである。30名の中に占める割合を示した。

第7表 電子図書館を使用して感じた長所

	長所	回答数	%
1	図書館に行かなくてもいつでもどこでも借りられる	24	80
2	知らなかったが、今後も利用したい	10	33.3
3	検索が便利ですぐ探せる	7	23.3
4	コロナ禍で他人と接触が少く衛生的	5	16.7
5	手軽に読めるので親しみやすい	4	13.3
5	自動的に返却され、返却忘れがない	4	13.3
5	ジャンルで探せる	4	13.3
5	厚い本や重い本でもスマートフォンで簡単に見られる	4	13.3
9	色合いもよくみやすく使いやすい	2	6.7
9	ランキングが提示されるのが便利	2	6.7
9	予約ができる	2	6.7
12	言葉の解説などがすぐに該当箇所へ飛ぶことができ便利	1	3.3
12	図書館の中を歩かなくても探せる	1	3.3
12	読書しない人でも読書習慣がつく	1	3.3

30名のうちの80%が電子図書館の図書館に行かなくても、いつでもどこでも、図書館に行く時間がない時でも利用できる点が便利であると高く評価している。検索が便利な点やジャンルで探すことができる。スマートフォンで簡単に使え、初めてで経験がなくても、簡単に利用

することができる点が良いという感想が多くみられた。

また、電子図書館の場合は自動的に返却されるので、返却忘れがない。厚い本や重い本などで持ち運びが大変なものでも問題なく利用できる点でも高く評価されている。

普段読書をする習慣がないが、今回授業の中で使用して、スマートフォンを通して便利に使えることがわかった。今後はもっと電子図書館を使ってみたいという意見もみられた。また、新型コロナウイルス感染拡大以前にはあまり重視されてはいなかった、他人との接触が少なく衛生的であるという新たなメリットが指摘されている。

電子図書館を利用して感じた改善を要する点は第8表のとおりである。

第8表 電子図書館を使用して感じた短所

	短所	回答数	%
1	図書の数が少ない	8	26.7
2	試し読みできる図書が少ない	5	16.7
3	実物に手に取ることができず、図書との出会いの機会が少ない	4	13.3
4	拡大機能が使いにくい	3	10
5	電子機器の充電が切れると使えない	2	6.7
5	貸出冊数が2冊では少ない	2	6.7
5	ネットに接続しなくても使えると便利	2	6.7
5	電子機器を使うため、目に負担がかかる	2	6.7
9	リアル図書館のほうが好き	1	3.3
9	予約後、借りるまでに時間がかかる	1	3.3
9	ドラマの原作本など、トピックの紹介がほしい	1	3.3
9	内容の比較や読みたい場所を振り返って探す時に不便	1	3.3
9	携帯でみると画面が小さいので見づらい	1	3.3
9	ページの切り替えの際の速度が遅いのもう少しはやいほうがよい	1	3.3

文化学園図書館の電子図書館で現在利用できるタイトルの全体数が約830タイトルであるため、図書の数が少ないと思うという指摘が最も多い。図書の数が増えて、自分が読みたい本を見つけることができれば、もっと利用したい。蔵書数が少ないことの影響を受けても貸出冊数を2冊2週間に設定していると考えられるが、冊数は多いほうがよい。図書を探すためには、試し読みのできる図書がもっとほしいという意見もみられた。

図書を読むための図書館の機能としては、拡大機能の

調整が使いにくいという指摘が最も多かった。また、スマートフォンでは画面が小さく見にくい。目が疲れやすいため、リアル図書館のほうがよいという意見もみられる。

この授業で電子図書館を使ってみた。その存在を初めて知ったので、もう少しPRをすることでより多くの人に興味を持ってもらうことができると思うという指摘もあった。

学部1年生には、図書館から電子図書館の利用や申請の方法に関する案内や説明のメールが配信されている。しかし、個々の学生にたずねたところ、自分でライブラリエの利用申請している学生はみられなかった。今回のように実際に授業の中に組み込みながら、具体的に試してみる、使い方の説明や例示を繰り返しながら利用を促すことで、多くの人を使うきっかけになると考えられる。

## V. 考察と今後の課題

『電子図書館・電子書籍貸出サービス調査報告』2019年版<sup>6)</sup>では、大学図書館が利用者のメリットとして考えている上位の機能は、「図書館に来館しなくても電子書籍が借りられる機能」、「必要な情報発見の検索機能（コンテンツ全文検索）」、「電子書籍の紙出力による提供機能（コンテンツプリントアウト）」、「文字拡大機能」などである。

今回授業の中で、文化学園図書館の電子図書館を使用し、学生に電子図書館の長所をたずねた際に、学生は「図書館に来館しなくても電子書籍が借りられること」、「速やかに検索できる機能」を挙げている。電子図書館の持つメリットに大学生も気づいており、実際に大学生に使ってもらうことで、電子図書館のメリットが利用者に伝わり、その使い方のコツを大学生と大学図書館との間で共有することができるようになる。

また、電子図書館が持つ資料の貸出、返却、予約の自動化機能は大学図書館にとっては、管理運営面でのメリットとして捉えられる。しかし、自動返却機能は返却忘れがなくなるという点では、利用者にとっても便利な機能であり、メリットになる。資料の汚破損の回避の機能は、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、利用者にも新たなメリットをもたらす。図書館に来館せずに図書の貸し借りをすることができ、現物資料のやり取りや他人との接触の必要がないからである。

近年、大学生の読書に関する問題として、読書をしていない大学生と長時間読書をする大学生の二極化が指摘され

ている。今回、これまで読書はしなかったが、電子図書館の図書をスマートフォンで使う便利さがわかった。自分と同じように読書をしていない人でも、スマートフォンを通して読書に親しむことができるのではないかと指摘や読書を介しての友達づくりができることに気づいた例もあった。

新型コロナウイルスの感染拡大防止対策として新しい生活様式が求められている。大学生の読書についても、電子図書館の利活用という新たな観点から、読書環境を見つめ直す必要がある。

大学生からの電子図書館改善点として、次のように3つの主要望があった。

- ・ 図書のタイトル数を増やす
- ・ 貸出冊数や貸出期間を増やす
- ・ 試し読みのできる図書を増やす

筆者が最も痛感したのは、電子図書館に関するPRが少ないという指摘である。電子図書館の申請や利用方法、利用事例などをきめ細かく例示することで、利用を促進することができる。さらに、大学生だけではなく、教職員に対しても、その利便性を広く伝え、文化学園ならではの図書館づくりを目指していきたい。より多角的かつ立体的な観点から大学生の読書、大学図書館のあり方を捉え直すことで、新たな図書館や図書館サービスを創出することができることが明らかになった。

### 注・参考文献

- 1) 石原美礼. “空白の時間読書の喜びを知る”. 朝日新聞. 2020年4月22日朝刊10頁.
- 2) 間部豊. コロナ禍における非来館型サービスとして電子図書館・電子書籍の状況と今後の課題と展望. 図書館雑誌, vol. 114, no.9, p.513-515.
- 3) “補完的活用で読書機会保とう”. 読売新聞. 2020年7月19日朝刊3頁.
- 4) “コロナ禍を読書する機会に”. 朝日新聞. 2020年4月24日朝刊10頁.
- 5) 青空文庫. <https://www.aozora.gr.jp/> (参照2020-12-14)
- 6) 植村八潮, 野口武悟. 電子図書館・電子書籍貸出サービス調査報告. 電子出版制作・流通協議会, 2019, 201p.
- 7) 文化学園図書館電子図書館. <https://www.d-library.jp/bunka/g0101/top/> (参照2020-12-14)